

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。ここに第120期第1四半期の営業の概況をご報告申しあげます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国は緩やかに回復したものの、欧州債務問題や中国及び新興国の成長鈍化により、弱い回復基調となりました。わが国経済は、政府の経済対策による公共投資の増加に加え、住宅投資や個人消費の上昇等の動きが見られ景気は持ち直しつつあります。

このような状況下、当社グループは、グローバルでの“成長”と高収益体質への“変革”を基本方針とした中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進しております。その一環として、北米及び南米市場での需要増加に対応するため、乗用車用スチールホイールの生産子会社であるトピー・エムダブリュ・マニファクチャリング・メキシコS.A. DE C.V. (メキシコグアナフアト州) の設立を決定いたしました。また、ASEAN地域での需要増加に対応するため、建設機械履帯の販売子会社であるトピー履帯インドネシア (インドネシア西ジャワ州) の設立を決定いたしました。さらに、需要に応じた生産体制の構築や生産性の向上等のコスト改善にも引き続き取り組み、企業価値の一層の向上に努めてまいりました。

今後の経済環境の見通しにつきましては、政府が取り組む経済対策効果によりわが国経済は回復に向かう動きが見られるものの、欧州債務問題及び中国経済の動向等による世界経済の情勢に不透明感が強く、当社グループを取り巻く需要動向等は予断を許さない状況が継続するものと思われます。

このような経営環境下、当社グループは、中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進する中で、成長が見込まれる海外市場に対して積極的に事業展開を図るとともに、国内のモノづくり基盤を強固なものとすることで、環境変化に強い事業構造を確立し、企業価値の一層の向上に努めてまいります。今後も、コーポレートメッセージ「One-piece Cycle」が表す「素材から製品までの一貫生産」の優位性を発揮し、トピー工業グループの一貫利益の追求とさらなる躍進を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年8月



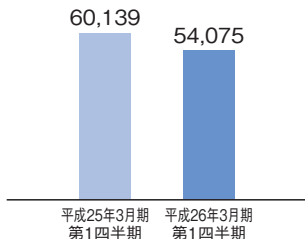
代表取締役社長

藤井 康雄

連結業績の推移

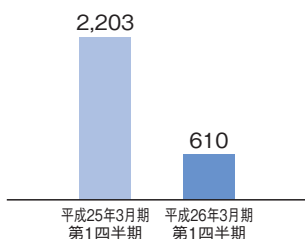
●売上高

(百万円)



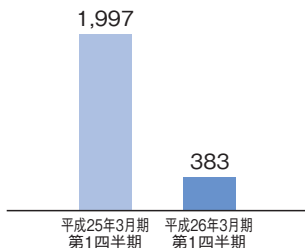
●営業利益

(百万円)



●経常利益

(百万円)

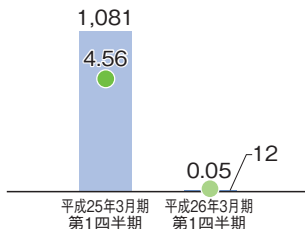


●四半期純利益

(百万円)

●1株当たり四半期純利益

(円)



第119期：平成25年3月期

第120期：平成26年3月期

四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	第119期 (平成25年3月31日)	第120期第1四半期 (平成26年6月30日)	科目	第119期 (平成25年3月31日)	第120期第1四半期 (平成26年6月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産	93,954	104,266	流動負債	72,617	74,693
固定資産	114,827	118,906	固定負債	44,905	54,222
有形固定資産	83,614	85,465	負債合計	117,522	128,915
無形固定資産	1,164	1,201	純資産の部		
投資その他の資産	30,048	32,240	株主資本	89,196	88,734
資産合計	208,781	223,173	その他の包括利益累計額	326	3,748
			少数株主持分	1,735	1,775
			純資産合計	91,258	94,257
			負債純資産合計	208,781	223,173

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 17,434百万円  営業利益 333百万円 

電炉業界は、需要の低迷が継続するとともに主原料である鉄スクラップ価格が上昇し、極めて厳しい環境となりました。

このような状況下、当社グループは、あらゆる改善諸施策に取り組み、徹底的な製造コストの削減に努めましたが、鉄スクラップ価格上昇に加え、自動車・産業機械部品事業に供給する鋼材需要の低迷による影響を受けました。

自動車・産業機械部品事業

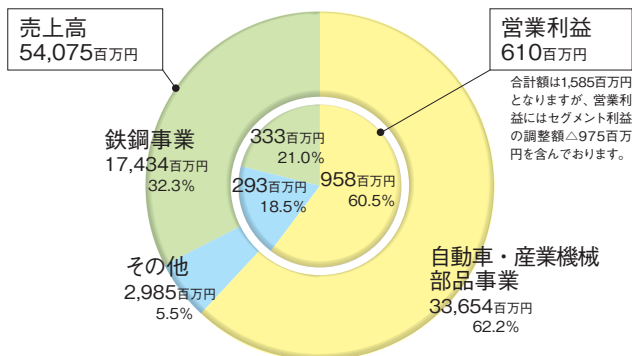
売上高 33,654百万円  営業利益 958百万円 

自動車業界は、震災復興需要の継続等によりトラックは堅調に推移したものの、エコカー補助金の打ち切りに伴う乗用車の販売減少により、国内生産台数は前年同期を下回りました。建設機械業界は、震災復興等に伴う国内需要が堅調に推移したものの、東南アジア市場需要の成長鈍化により、厳しい環境になりました。

このような状況下、当社グループは、トラック用ホイールにつきましては需要を着実に捕捉し、販売が底堅く推移いたしました。さらに、あらゆる改善諸施策にも継続して取り組んでまいりました。しかしながら、鉱山向け超大型ホイール及び建設機械用足回り部品の販売数量が減少いたしました。

その他

売上高 2,985百万円  営業利益 293百万円 



連結業績の予想

	平成25年3月期 実績	平成26年3月期 当第2四半期 累計予想	平成26年3月期 予想
売 上 高	226,912百万円	111,000百万円	233,000百万円
営 業 利 益	6,990百万円	1,200百万円	7,400百万円
経 常 利 益	6,234百万円	700百万円	6,600百万円
当 期 純 利 益	3,409百万円	100百万円	3,700百万円
1株当たり当期純利益	14.38円	0.42円	15.60円

配当の状況

	平成25年3月期 実績	平成26年3月期 予想
第2四半期末	2.00円	0.00円
期 末	2.00円	4.00円
合 計	4.00円	4.00円



敷地面積 257千㎡ 従業員数 371人（単体・2013年3月末現在）
生産品目 乗用車用スチールホイール、自動車用プレス部品、
タイヤセット

豊川製造所では、軽自動車からSUV系まで幅広い車種に対応した乗用車用スチールホイールを製造し、月産約55万個（2シフト時）の生産能力を保有しています。重要保安部品であるホイールに要求される高度な品質を追求し、徹底した合理化活動により高速で少人化された世界最高レベルの生産性を実現しています。また、ボンネットフードやトランク、バックドアなどの補給部品を中心とした自動車用プレス部品を製造し、かんぱん方式により月産約6万個を生産しています。改善を重ね築き上げた独自の生産方式により、多品種少量のオーダーにも柔軟に対応しています。

そのほか、ホイールとタイヤの組み付け・調整（タイヤセット）を行う明海工場（愛知県豊橋市）と鞍手工場（福岡県鞍手郡）を有しています。



写真：デザイン性を飛躍的に高めた
ラージウィンドウホイール